

山形市PTA連合会 会報

じゅひょう

山形市PTA連合会ホームページ

ymgtcity-pta.com



検索

第 37 号

令和元年12月発行

発行 山形市PTA連合会
会長 佐藤 博之
山形市十日町一丁目6番6号
県保健福祉センター内
TEL 023-631-0055
印刷 中央印刷株式会社



第62回山形市PTA連合会研修大会(山形テルサ)7月7日(日)

『子どもを愛し 地域を愛し 互いを信頼し合うPTA』

～織り成す縁に感謝 子どもたちと一緒に今を生きる～

HP : <https://www.ymgtcity-pta.com> E-mail : info@ymgt-pta.jp

2022年度
第70回日本PTA全国研究大会山形大会が開催されます!!

「子どもを愛し 地域を愛し 互いを信頼し合うPTA」

～織り成す縁に感謝
子どもたちと一緒に今を生きる～



山形市PTA連合会会長 佐藤 博之

日頃より山形市PTA連合会の活動に対しご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、単位PTAにおいても、子どもたちの健全育成のための環境づくりや学校と地域の架け橋としてご尽力いただいておりますことに心より感謝と敬意を表します。

山形市PTA連合会は今年度も「子どもを愛し 地域を愛し 互いを信頼し合うPTA」～織り成す縁に感謝 子どもたちと一緒に今を生きる～のスローガンのもと活動を展開してまいりました。人と人との縁は不思議なものであり、そしてとても大切なことです。心豊かでたくましい子どもたちを育むため、PTAの仲間として出会えたことに感謝し、お互いを信頼し合い、子どもも親も一緒に成長していくことを主眼としております。親同士の繋がりや家庭・学校・地域の繋がり、子どもたちを見守る温かく豊かな地域づくりの礎となり、必ずや子どもたちの健全育成に繋がるものと思います。そして、そのような環境をつくるのが我々PTAの役割と考えております。

PTAは私たちの研修の場です。私たち親自身の成長のためには「教育の基盤は家庭にあり」というPTA活動の原則のもと、しっかり学び・研修することが必要です。テーマを「家庭・学校・地域で子どもたちの笑顔を未来に繋ごう！～過去・現在・未来のPTAを考えよう～」とし開催した第62回山形市PTA連合会研修大会や、母親委員会との共催で開催した「いのちの大切さ学習会」、また部活動・スポ少のあり方について話し合われた「教育懇談会」など、親としての学びを深めることができたと思っております。さらに、各単位PTAにおいても特色ある活動が展開されていますので、その折々に様々な価値観に触れ、その違いを認め合い、互いの信頼関係や絆を深めながら子どもたちの健全育成に繋げてまいりましょう。

また、「我々PTAは家庭、学校、地域、そしてすべての子どもたちの応援団である」という理念のもと、有志で応援団を結成いたしました。「親の背中を見せる」などとカッコいいことを言うつもりはありませんが、全力で応援する姿勢、そして、その声や思いが子どもたちや保護者の方々に届き、少しでも記憶に残ってくれたら幸いです。併せて団員も募集しておりますので我こそは！という方をお待ちしております。

さて、令和4年に日本PTA全国研究大会山形大会が開催されます。山形県や山形市PTA連合会の活動を全国に発信できる機会と捉え、全国からの参加者を笑顔で迎えらるよう一致団結し準備に取り組みたいと思います。山形市PTA連合会としても全体会や分科会運営に携わることとなります。皆様からの全面的なご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、山形市教育委員会様をはじめ関係各位の皆様にご心から感謝申し上げますとともに、今後ともご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

子どもを守り、そして育てること



山形市教育委員会教育長 荒澤 賢雄

山形市PTA連合会並びに、各単位PTA、そして会員の保護者の皆様方には、日頃より山形市の教育行政にご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

また、佐藤会長をはじめ、各小学校のPTA会長の皆様、そして役員の皆様方におかれましては、学校・家庭・地域社会の連携の要として、子どもたちの健やかな成長のためにご尽力いただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、今子どもたちは安全で安心、かつ、明るく元気に毎日を過ごすことができているでしょうか。

子どもたちを守らなければならない私たち大人たちの行動が、子どもたちの将来をおびやかす事態になっていること、社会的・経済的事情を優先に考えるがゆえに子どもたちの世代に負担を強いることになっていること等々、様々な問題について考えさせられる時代となっております。

そうした問題の一つとして、情報通信分野の急速な発展と環境整備があげられます。近年、私たちの生活スタイルは日ごとに利便性が増し、都市部・郊外の分け隔てなく様々な情報を入手することができるようになり、大人世代のみならず子どもたちの日常も生活の変化を感じるものとなりました。

現代社会は、インターネット・SNSなどの通信手段が浸透し、瞬時にものを伝えることが可能となった反面、意思の疎通がうまく行かずちょっとした行き違いから摩擦が生じ、時には取り返しのつかない事件事故に巻き込まれるケースなど、思いもよらないことに発展する可能性があり、利便性の追求に伴い十分なセキュリティー意識が求められる時代となっております。

このような状況のもとPTA連合会では、平成26年度から、投稿による炎上・いじめ・スマホ依存等々、様々なネットトラブルから子どもたちを守ることを目的に、インターネット・SNSを利用する際の知識の研修や情報機器を安全に使うためのルールについて、大人・保護者の理解を深めるため、情報化社会への考え方や対応といった「ネットモラル」の向上に取り組んでおられます。

このような活動が継続的に行われることは、子どもたちが情報化社会への適応力を身につけインターネットの不適切な使用を防ぐために役立つものと大いに期待できる取り組みと考えます。

今や、コミュニケーションツールは、スマートフォン等によるインターネット・SNSが主流になりつつあり、人どうしが対面する「話す・聞く」といった日常にある自然な生活体験さえも失われつつあります。このことは人間関係の希薄化にも及び、人間どうしのふれあいが減ること、すなわち地域社会全体との結びつきといった連帯意識の低下にも繋がりがねず、子育てや子どもたちを取り巻く環境に大きく影響しているところです。

子どもを守り育てることは、地域社会全体で応援し合うという意識の共有が必要です。豊かな人間性を育む質の高い教育の実現を目指す「学校教育」、家族のふれあいを通して基本的な生活習慣を身につけていく「家庭」、そして大人が子どもを見守る「地域社会」が、これらそれぞれの役割と責任を十分に果たしながら、連携・協力を充実強化していくことが重要であると考えるところです。

今後、子どもたちの安全と安心を願いながら、いかにして子どもたちの身を守るか、どう健やかに育てるのか、PTAの皆様方の活動が、子ども・保護者・地域・学校等における相互のパイプ役として、あるいはサポート役として、子どもたちが成長していく糧となるようご活躍いただくことを祈念いたしますとともに、ご期待申し上げます。

市P連研修大会を終えて

山形市立第二中学校父母と教師の会 大会実行委員長 佐藤 隆 幸



令和元年7月7日七夕の日に、『第62回山形市PTA連合会研修大会』が開催されました。皆さまからのご協力ご支援を頂きまして、無事に研修大会を終えることが出来ました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

今回の研修大会のテーマは『家庭・学校・地域で子どもたちの笑顔を未来に繋ごう！～過去・現在・未来のPTAを今考えよう～』でした。私たち保護者は、子どもたちの笑顔は宝・子どもたちが日々楽しい学校生活を過ごすことを願い、家庭だけでなく学校・地域で子どもたちの為により良い環境を創りあげていくことを希望しております。この研修大会では過去・現在のPTAを振り返り、より良いものを未来に繋げる為に、これからのPTAのあり方を皆さまより考えて頂く機会となったのではないのでしょうか。

教育の原点は『家庭』です。教育基本法においても「教育の第一義的責任は保護者にある」と謳われているように、家庭教育力を向上させながら、学校教育を支えていくことをさらに意識していく時期にきています。そこでこの度の講演会は國學院大学の田村学先生をお招きさせて頂きました。田村先生は新学習指導要領作成に携わった方です。子どもたちが今どんな学習をしているか、これからどんな学習をしようとしているか、今の学習が子どもたちの未来にどのように活かされるかをお話しして頂きました。この講演会が皆さまにとっても今後のPTA活動にとってもお役に立つものになれば幸いです。

最後になりますが、本研修大会を良き大会となるようご指導賜りました、佐藤博之会長はじめ山形市PTA連合会の皆さま、山形市教育委員会、講師の田村先生、各分科会のコーディネーター、パネリストの皆さま、そしてご参加頂きました小中学校の保護者の皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



山形の子育てを全国に発信しよう

日本PTA全国協議会 第35代会長 武田 岳彦

令和4年度第70回日本PTA全国研究大会山形大会の開催が決定しました。全国のPTAの仲間が集う大会を主催することは、山形県PTAが発展していくためにとても良い機会だと思います。

豊かな自然に囲まれ、三世帯同居率が日本一という山形県で、のびのび育つ子どもたち。

いち早く少人数学級の必要性を認識し「さんさんプラン」を導入した実績など、教育県とも呼ばれる山形県で展開される教育とPTA活動には、全国に誇れるところが沢山あります。大会開催にあたり、山形県の子育てを再検証し、良いところや課題を抽出し、今後のPTA活動の方向性を見極めることは、とても大切なことです。

また、大会を通して、全国のPTAが情報を共有することは、日本の子育て環境をより良くするために極めて重要であり、高い意識のもとで、全県が一つになって大会を成功裏に導いて欲しいと願っています。

多くの大会に参加してきた経験から、全国大会で実現出来たら素晴らしいと思うことが2つあります。1つ目は、「先生が参加する大会の開催」です。全国のPTAの持つエネルギーと想いを先生方にも知って頂きたい。全国大会に先生が参加しないのは、あまりにもったいないと思うからです。2つ目は、「山形方式の発信」です。例えば、テーマがいじめ撲滅ならば、1年間、県内のモデル校でPTAが主体となって本気でいじめ撲滅に向けての活動に挑戦し、有効だった活動を山形方式として全国に発信します。全国で同じ活動が展開されれば、いじめに悩む子どもを減らすことにつながるでしょう。このように、現PTA会員の皆さんの思いを形にして発信することが何より大切です。子どもたちの笑顔のために！素晴らしい山形大会になりますことをご祈念いたします。

令和元年度

教育懇談会

日時 令和元年10月11日（金）17：00～ 場所 パレスグランデール

テーマ 望ましいスポーツ環境を目指して「山形市における運動部活動の方針」について

研修委員長 船橋 吾一

10月11日（金）、令和初となる教育懇談会が行われました。昨年同様「部活動」と「スポ少」の支援研修会とし、山形市教育委員会より荒澤教育長はじめ8名の職員の皆様からご出席いただきました。

はじめに、スポーツ保健課主任指導主事兼保健体育係長の熊谷雅志様より課題提供ということで「望ましいスポーツ環境を目指して『山形市における運動部活動の方針』について」と題し、平成30年3月に策定されたガイドラインをもとにご説明いただきました。そこには、【適切な運営のための体制づくり】【合理的で効率的・効果的な活動】【適切な運動部活動の運営】【運動部活動における事故防止】【学校単位で参加する大会等の見直し】について、子どもたちが安全且つ健全に部活動に取り組める為の必要事項が盛り込まれており、この内容が保護者の間に広く深く浸透することが大事であると、改めて実感致しました。

続いて、教育委員会の皆様にもご参加いただき、8つのグループに分かれ、トークリーダーを中心に話し合いが行われました。視点1『各校の部活動・スポ少活動の現状と課題について』、視点2『市教委からの部活動の方針の発出以前と現時点の変化と課題について』それぞれ情報・意見交換を行いました。当初予定していた時間を延長しても尚時間が足りないという声が多数聞かれ、関心の高さを感じました。

その後記録係による発表が行われ、各グループの意見を共有する時間が持たれました。いくつかご紹介致します。

- ・保護者の負担（送迎・茶当番等）が大きい。
- ・保護者の関わりが大きいことから、部活動やスポ少ではなくクラブチームを選ぶ家庭が増えてきた。
- ・送迎ができず部活動を諦めるという家庭もある。公共交通機関を使用して活動してほしい。
- ・使用できる時は電車やバス、可能な範囲内であれば子どもたちは自転車移動をしている。顧問の先生が安全面を考慮し、大きな荷物を車で運んでくれるので安心。
- ・文化部が少ない。運動の苦手な子や学業を重視したい子の選択肢を増やしてほしい。
- ・スポ少のガイドラインも作成してほしい。
- ・部活動の時間が短縮されたことにより、外部での練習を設けている。
- ・スポーツを楽しむ子（親）と勝ちを重視する子（親）の間には温度差があり、その中で練習の内容や時間、方針を統一させていくのは難しい。
- ・子どもたちにとって何が最善かを考え、大人の意識も変えていく必要がある。
- ・多くの意見・情報交換ができ良い機会となった。次は先生方も一緒に参加してほしい。学校単位で開催することも提案したい。

など、「成果」は感じられるものの、少子化によるスポ少活動の制限や先生方の働き方改革を理解したうえでの部活動の在り方など、保護者の視点から見える問題点や課題がまだまだ多くあるという印象を受けました。この場限りの情報交換とならないよう、今後に繋がる対応策を希望するとの意見もあり、これからの部活動等を考えていく中で本日交わされた多くの意見が活かされることを願います。

その後、佐藤山形市PTA連合会会長より総括と講評をいただき第Ⅰ部終了、引き続き第Ⅱ部懇親会の中でも各校の情報交換が積極的に行われ、山形市PTA連合会の勢いを実感致しました。

最後に、教育懇談会にご参加頂きました皆様に感謝申し上げ、報告とさせていただきます。



子どもを愛し 地域を愛し
—織り成す縁に感謝—

創立130周年を迎えて

山形市立第二小学校PTA会長 伊藤 善隆

山形市立第二小学校はことし、創立130周年を迎えました。これを記念し、ことしは同窓会、PTA、地域の方々と創立130周年記念事業実行委員会を組織し、様々な活動を行ってきました。

その活動の一つが、記念事業として導入した音楽室へのエアコンの設置です。本年度、普通教室へのエアコンの設置作業が、未設置だった市内の全ての小学校で行われていますが、音楽室等の特別教室への設置はありません。二小では、吹奏楽部が9年連続東北大会に出場しているほか、授業でも音楽室の使用率は極めて高いことから、子どもたちの様々な学びや活動を支援しようと、記念事業の目玉としてエアコンを設置しました。

設置にかかる費用は、地域の方々や二小に関わりのある多くの人からの寄付を募ったほか、PTAで実施している資源回収の収益金などを充当。予想以上に多くの寄付が集まり、夏休み中の設置作業が完了しました。これまで、教室の気温が連日30度以上になる中で活動していた子どもたちですが、快適な環境での勉強や練習ができて笑顔が広がっていました。

また、10月1日には創立130周年記念式典に加え、佐藤孝弘山形市長にもご臨席いただき、記念祝賀会を開催。約140人が新たな節目を祝いました。

このほか、130周年記念誌を編纂しており、過去10年間の活動写真のほか、創立以来の歴史をまとめています。特に、記念式典を前に今から125年前の卒業証書が地域の家庭から学校に寄贈されたことは、非常に貴重な資料となっただけでなく、改めて二小の歴史を学ぶ機会となりました。

節目の年だからこそ、過去の歴史を学び、未来に向けた一歩を踏み出す活動ができた一年となりました。



地域と子どもたちを結ぶ「いちよう秋まつり」

山形市立第四小学校奨学会会長 室岡 清人

私たち山形市立第四小学校 奨学会では今年で13回を数える「いちよう秋まつり」を開催しています。第一回からの「安心安全な地域・学校づくり、お年寄りから子どもまで顔と顔とがつながる地域の輪」とした開催趣旨を継承し、今年は、10月19日にテーマを「平成から令和へ!つなげよう笑顔の絆」として開催しました。

各学年保護者による屋台の出店と母親委員会によるおさがりバザー、体育振興会・福祉協議会・民生委員会・中央公民館・こんにゃく道場様などよりも出店を頂きました。

また、子どもたちにも参加呼びかけ、いちようコンサートも開催し、歌や漫才で盛り上がり、アリーナからは、子どもたち・地域の皆様の楽しそうな声や大きな笑い声をたくさん聞くことができました。

子どもたちは、各団体のお茶だしのお手伝いを自分たちでグループと時間を決めて対応し、ブース内では一緒に参加したり和やかな時間を過ごしていました。この様な姿をみると、第一回からの趣旨が脈々といちようの子どもたちに受け継がれているのだと感じ、これからも大切に育てながら地域の皆さんとつづけていければと思います。

また、四小の子どもたちは4年生のみ2クラスでその他は1クラスの単学級で児童数が211名しかいません。その為、大きな学校にはない縦のつながりがあり、運動会などは子どもたちが実行委員会を立ち上げ、自分たちで考え開催し、大人達はサポートに徹します。ほかの学校にはないつながりではないでしょうか? 私は、そんな第四小学校が大好きです。

最後になりますが、いちよう秋まつり開催にあたり協力・協賛頂いた皆様、準備・企画して頂いた役員・保護者方にお礼を申し上げ、これからも「いちよう秋まつり」を通して子どもたちの育成と学校・保護者・地域三位一体となってより良い地域づくりが出来ればと考えています。奨学会活動もあと少しとなりましたが、自分なりに楽しみながら皆様と共に多くの笑顔で締めくくりたいと思います。



親子 互いを信頼し合うPTA 子どもたちと一緒に今を生きる—

実践 事例

『緑と光と風の学校』

山形市立第八小学校PTA会長 揚 妻 礼 悦

山形市立第八小学校は、間近に盃山や千歳山があり近くをいも煮会で有名な馬見ヶ崎川が流れており、緑と光と風の素晴らしい環境に恵まれた学校であります。

今年で創立66周年を迎え、PTA組織も創立した昭和28年5月に結成され今に続いております。

そして2年前に、父親同士で子どもたちに何かしてあげられないか？という要望のもとに山八小パパの会が結成されました。

本校には平成15年に創立50周年を記念して設置された親水空間『きらきら水路』があります。

設置当時はきれいな水路で子どもたちも水遊びをして楽しんでいたのですが、年数と共に汚れが目立ち雑草も生え放題になっており、子どもたちも近づかなくなってしまっていました。

そこで今年度のパパの会の活動の一つとして『きらきら水路』の清掃を行いました。

学習発表会の日の朝7時30分から1時間、有志の方々で行いましたが、予想以上に雑草が生え放題になっており川底にはヘドロが溜まって、今後数回に分けて昔の姿に戻していく事となりました。

まだ発足したばかりの山八小パパの会ですが、子どもたちの充実した学校生活の為、PTAの皆さんと先生方、そして地域の皆様のご協力のもと、山八小のキャッチフレーズである『緑と光と風の学校』を益々誇れるものにしていけるように、PTA一丸となって努力して参りたいと思います。



実践 事例

希望で登校、感謝で下校

山形市立第五中学校PTA会長 鈴木 祐 一

私たち山形市立第五中学校の学区は、山形市の中央部及び北部地区にあり、学区内には山形市役所等の行政機関、報道機関、金融機関がある他、山形東高校など歴史の長い学校が存在します。薬師公園など歴史ある街並みも多く、北部には鋳物の伝統産業、郊外型量販店など商業地があります。

本校は今年度で創立68周年を迎え、山形三小、山形四小、山形七小、山形九小の4校の子どもたちが入学し、「希望で登校、感謝で下校」の精神で537名の生徒が登校しています。

PTA活動は、4校の保護者から役員を選出し各専門部で年間計画を立て活動を行っています。活動内容を紹介しますと、各学年の教育部は「学級懇親会、学年行事の企画実施」、保健体育部は「PTA学年球技大会、学校保健委員会の開催」、広報部は「広報紙 ひまらや杉の年3回発行」、文化部は「PTA研修会の開催（賢い頭、強い体作りを助ける食事講話）、生徒と一緒にあいさつ運動の実施」、母親委員会は「おしゃべりサロン開催（自家製みそづくり講座）、制服バザーの実施」となっています。又、最近の働き方改革を踏まえ、今年度から前年度を踏襲したPTA活動の見直しに取り組んでいます。今年度は主なものとして保体部の「五中学区PTA親善球技大会」を中止し、来年度以降も見直しを継続していく方針です。

最後に、地域の宝である子どもたちを取り巻く環境は常に変化しており、その変化に対応するため、学校、家庭、地域社会の連携を密にして生徒の健全な育成が図れるようPTA活動を推進して参りたいと思います。



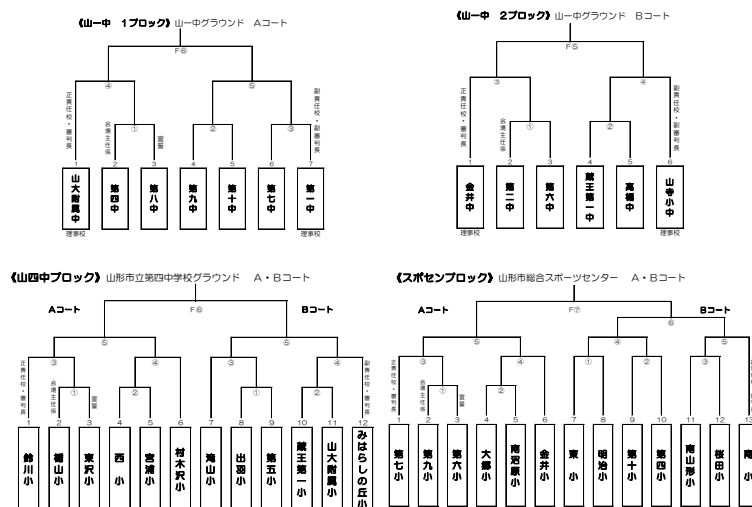
第44回 山形市PTA連合会ソフトボール大会

残念



抽選会も行い、準備していましたが、雨天でグラウンドコンディション不良のため、中止となりました。

幻の組み合わせトーナメント右記のとおりでした。



令和元年度 小・中学校部会

山形市 PTA 連合会理事（小学校部会長） 菅 野 学

7月1日（月）、「山形国際ホテル」で、各学校のPTA会長、並びに母親委員長（または代理）の方々約80人が参加して標記部会が開催されました。

まず、研修1では、公務多忙の中、佐藤孝弘山形市長ご本人にお越しいただき「中核市移行に伴う市政展望」と題し、講話をいただきました。

その中で、今年4月の山形市中核市移行に伴い、県から2,500余りの事務移譲がなされ、「市保健所」や「市動物愛護センター」の設置などで、市が一元的に行政を担うことにより、健康医療先進都市をめざした事業などに、これまで以上に力を入れられるようになったことが話されました。

また、教育環境の充実にむけ、学校のICT環境整備や全小中学校へのエアコン設置を行っていること、Y-biz（市売上増進支援センター）による産業支援や「中心市街地グランドデザイン」の策定による市街地活性化を進めていることなどについて説明がありました。

講話の後、参加者からは、○教師の「働き方改革」の一環として、各中学校に配置されるようになった部活指導員の今後のさらなる配置への考え方、○学校へのタブレット端末の本格導入の進め方など、限られた時間の中でさまざまな質問が出されました。そして、佐藤市長からもそれぞれの質問に対し、丁寧に答えていただきました。

その後、研修2として、テーブルごとに懇親を行いながら、各学校のPTA活動の現状や課題、工夫している取り組みなど、活発な情報交換が行われました。

佐藤市長にも各テーブルを回っていただき、各学校が抱える悩みや役員の方の熱い思いなど、熱心に耳を傾けていただきました。

非常に盛り上がった懇親もあっという間に時間が過ぎ、盛会の中で閉会行事へと移りましたが、会の最後に佐藤博之市P連会長の筆頭とする有志応援団（市P連役員）が佐藤市長に対し、お礼のエールを送り、閉会となりました。

参加者からは、以下のとおり、好意的な感想が多く寄せられました。次回も大いに盛り上がり、かつ有意義な部会となるよう、準備を進めてまいります。

最後になりますが、準備を進めてくださった役員・事務局、並びにご参加いただいた皆さまに心より感謝申し上げ、報告といたします。



◎小・中学校部会に参加された皆さんから寄せられた感想の一部

「佐藤市長の話聞くことができ、山形を改めて見直す機会が持てた」

「市政運営について説明がわかりやすく、市政を身近に感じることができた」

「佐藤市長から興味深いお話を聞けて、嬉しく思う。山形市が良い方向へ行くワクワク感を持つことができた」

「中核市移行を契機に、教育の充実にさらに力を入れていただくことを期待したい」

「他校の方々と情報交換ができて、貴重な時間を過ごすことができた」



いのちの大切さ学習会

日時 11月17日(日) 場所 山形市保健所視聴覚室

「言葉、笑顔、心の大切さ」

山形市PTA連合会理事 笠原 健一

11月17日に霞城セントラルで開催された「いのちの大切さ学習会」に参加させていただきました。

小児科医として長きに渡り子どもたちと接してきた田澤先生のお話しは、非常にわかりやすく、且つ論理的でした。スマホ、ゲームが子どもの成長に良くないことはわかっていたつもりですが、田澤先生が数値と様々な事例を挙げながら説明してくれたお陰で、なぜ、スマホ、ゲームが悪影響なのか理解を深めやすい内容になっておりました。

ゲーム、スマホに依存している割合は7人に1人で、ギャンブル依存と傾向が似ており、閉鎖的な環境におかれた子どもは、キレやすく、暴れだしたりすることになること、また、ゲーム、スマホによって発達障害の割合は8年前の20倍に増加し、言葉を聞く力が育つのを阻み、周りとのコミュニケーションを取れない大人になっていくとのことでした。

子どもの自尊心を傷つけると脳の発達が阻害されるため、家庭内で子どもを認めることが大切です。言葉、笑顔、心は、子どもが大人になるために必要な土台ですので、双方向であいさつができること、家族団らんで食事をするなどの大切さを改めて振り返るきっかけとなりました。

今まで全力で子育てしてきたからこそ、一度、家庭環境を冷静に見つめ直して、ゲーム、スマホの使用割合が多いと思われる場合は、いつからでも遅くないとのことなので、ノーメディアを意識した子育てを各家庭で取り組めば、子どもたちはきっと素敵な大人に成長すると思います。



令和元年度 山形市PTA連合会 母親委員会 活動報告

テーマ「命の尊さ大切さ」～かかわる喜び つながる心～

○定例母親委員会

- ・第1回母親委員会(5/14)今年度の活動計画・情報交換
- ・第2回母親委員会(6/28)情報交換(ワールドカフェ形式)
- ・第3回母親委員会(2/中)今年度の反省・情報交換

○親学「家庭教育視察研修」(2/上)

- ・県立図書館視察

○拡大母親委員会(11/17)

「いのちの大切さ学習会」

演題：笑顔がない・寂しい・自尊心をうばわれた子どもたち
～不登校・いじめ・ひきこもり・大人になれない悲しい物語の背景にあるもの～

講師：田澤 雄作 氏(宮城県立こども病院支援NPO「ワンダーポケット」理事長)

○母親委員会だより「マザーズねっとわーく」No.24 3月発行



山形市PTA連合会母親委員長 高見 佳澄

日々母親委員会の活動に、ご理解・ご協力いただきましてありがとうございます。また、単位PTAにおかれましても活発な活動をしていただき感謝申し上げます。

本年度も昨年度に引き続き、子どもに必要なのは一番身近な親の愛情やスキンシップではないかと考え、「子どもと親のかかわりの大切さ」を考えながら活動してまいりました。

また、お母さん同士のつながりが重要と考え、情報交換に重点を置き、子どもたちの抱えている課題について話し合っていました。出していた課題の中から、研修や視察につなげております。本年度の新たな試みとしては、教育委員会の方とお話したいというご意見もあったことから、山形市教育委員会・山形市PTA連合会の教育懇談会に参加させていただきました。部活についての話は尽きることなく、とても有意義な時間を過ごすことができました。

皆さんとともに学び合い、今後の様々な活動に活かしていけるように努めていきたいと思います。

未来を生きる子どもたちのために

山形市PTA連合会第18代会長 遠藤 正 明



平成18年から平成21年の4年間、山形市PTA連合会会長を務めさせていただきました。スローガンとして、「はぐくもう笑顔輝く山形の子どもたちを」～行動しよう守り育てるPTAを目指して～を掲げ、子どもたちを取り巻く様々な課題の解決に向け、仲間と共に行動して参りました。教育の基盤は家庭にあり、家庭での育ちがあり学校での学びが成立し、地域の人々とのかかわりの中で大きくのびていきます。子どもを守る大人が自信を持ってしっかりと、子どもたちを見守り育てていく事が必要であると考えています。

昨今、学校や子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しています。だからこそ、家庭・学校・地域社会の架け橋として、また地域の一員としてのPTAの役割が、笑顔輝く子どもたちを育むためにはますます重要なものになってきている様に感じます。

PTAは、不連続の連続の組織です。時代が変わってもPTAの役割に変わりはありません。次世代を担う子どもたちの明るい未来を創るのは、大人の責任です。これからも、大人として当たり前のことを当たり前に行ってほしいものです。

各单位PTAの活躍と山形市PTA連合会の更なる発展に心からご期待申し上げます。

“絆”を生むPTA活動に

山形市立金井中学校 校長 渋谷 和 久



忘れもしない3.11東日本大震災。公共広告機構のCMと共に、あちらこちらで“絆”という言葉を目にした。そんな折、ある先輩から“絆”とは、そう簡単にできるものではないという話を聞いたことがある。

1. “かかわり”を持つこと 同じ会議に席を並べ、自己紹介、相手を知ることにより、自ら接することにより“かかわり”ができる。
2. “つながり”をつくること 関わった人々から、一方通行ではなく、相手から受け取ること、学ぶことができれば、“つながり”になる。
3. “まとまり”になること 自らかかわり、相手を受け入れてつながったもの同士で、同じねらいを共有した行動を共にすれば、そこに“まとまり”が生まれる。
4. やっと“絆”ができる ねらい・意思を共有したもの同士で、まとまった行動を積み重ねることによってこそ、生まれるのが“絆”とよべるものである。

学校における働き方改革やPTA全員加入の是非等議論に上がる昨今。今年度、38年間の中学校教員生活を終えるにあたり、PTA活動を振り返ってみると、“絆”を求めるところに諸問題の解決の道があった。目の前の児童・生徒の幸せ、健全な成長を望むという点で、PもTもねらい・意思を共有したもの同士である。だからこそ“絆”というGOALを感得した時には、一切の議論も諸問題も解決していたと言える経験があった。まず“かかわり”、互いの思いが一方通行でなく“つながり”、同じ時間・行動を共にして“まとまり”、その積み重ねを経て“絆”へ PもTも、まだその途中の段階しか経験していないところでの“云々”は、もったいないと残したい。

第51回日本PTA東北ブロック研究大会南陽・東置賜大会に参加して

山形市PTA連合会理事（中学校部会長） 佐 藤 一 也



9月7日、8日に南陽市を中心として開催された、第51回PTA東北ブロック研究大会南陽・東置賜大会に参加させて頂きました。東北各県から多くのPTA関係者が集まり、「つなげよう家庭・学校・地域を 親も成長しよう子どもと共に」をスローガンに全体会と6つの分科会が行われました。1日目は各分科会が行われ、私は第5分科会に参加致しました。

「人権教育における、お互いを尊重し合える心の教育について」のテーマで、内容については、最近において大きな問題にもなっている、インターネット・SNSに関するお話でした。これまでにあった事例を交えて、いかにネット社会が便利でありながらも、危険と隣り合わせである事を再認識し、子どもに教えると同時に、自分自身も改めて勉強していかなければならないと感じたところです。

2日目は南陽市にて全体会が行われ、記念講演ではTVなどでお馴染みのデヴィ夫人でした。内容はこれまでの経験を踏まえた、幼少期の事や子育てについて等、テレビで見る姿とはまた違った一面を拝見する事ができました。お話の中で特に印象に残ったのは、今年のニュースでも大きく取り上げられた、親による乳幼児虐待事件についてでした。デヴィ夫人自身もとても心を傷められてるようで、許すことができない事件だと力強くおっしゃってました。本来ならば母親が身を挺して子どもを守るところを、男に加担してしまい命を奪っている。テレビで見せるお茶の間に笑いを振りまく姿とは違った、人間デヴィ夫人を拝見させて頂き、前日の分科会と合わせ実り多き2日間を過ごす事が出来ました。

私たちPTAは、子どもたちが安心、安全に学び、そして保護者PTA、教職員、地域の皆様方と共に三位一体で見守り、成長を見届け、より多くの子どもたちが笑顔溢れる社会になるよう、活動を継続してまいります。

第67回日本PTA全国研究大会兵庫大会に参加して

山形市PTA連合会理事 荒 井 英 晴

●8月23・24日に兵庫の地で開催された、第67回日本PTA全国研究大会兵庫大会に参加してきました。全国各地から約8400名のPTA関係者が集まり、【つなげよう「いのち」のバトン次世代を生き抜く子どもたちへ ～地域とともに育む力 兵庫から～】という大会テーマのもと熱い時間を過ごして来ました。1995年に発生した阪神・淡路大震災では多くの尊い命が失われました。震災から約20年が経った兵庫県での開催。家庭、学校、地域が連携を強め「いのち」の大切さを再確認し防災の実践力を高め、安心安全な地域社会など、被災地から復興した兵庫県ならではの大会となりました。

●23日に参加した第1分科会において教育サポーターの仲島正教氏の基調講演では、「家庭教育」をテーマとし「今日の家庭教育が果たすべき役割」という研究課題について、自身の小学校教師の経験から、子どもとの距離感が大切であること、「～10秒の愛～」たかが10秒、されど10秒、コミカルな“大阪弁”のマシガントークで聞くことが出来ました。会場の誰もが涙あふれるエピソードに感動の連続でした。

●24日の全体会は「ワールド記念ホール」で宝塚OGレビューショーのご当地歓迎アトラクションの後、メンタリスト DaiGo 氏による「子育ては、心理学でラクになる」と題した記念講演がありました。自身の幼少期のいじめ体験をもとに、「誰かが変えてくれるのを待っていたが、自分から変えていけば、けっこう道は開けて行くもの！」というエピソードや「PTA活動は真面目にやるというよりは、今までやったことのないようなクリエイティブな活動をする方が結果は良くなる」との助言が非常に印象に残りました。分科会・全体会共に自分の家に帰って「ちょっとやってみようかしら？」と感じる内容が凝縮され、普段とは違った場所で様々な経験をし、実りある2日間となりました。



令和2年度 第63回山形市PTA連合会研修大会

実行委員長 山形市立第三中学校PTA 安食克彦



市P連の皆様こんにちは。第三中学校PTAの安食克彦と申します。第63回山形市PTA連合会研修大会は第三中・第一小・第二小・第十小が主管校となり、各校の仲間と共に来年7月5日（日）の開催に向けて準備を進めているところです。

第63回研修大会のテーマは「新しい時代にはばたく子どもたちを皆で育み支えよう～家庭・学校・地域の連携から協働へ～」とさせていただきます。令和の時代が始まり、私たち保護者が子どもだった頃とは家庭環境や教育現場、地域の課題などあらゆる面で大きく変化しております。PTA活動は、保護者・先生方の学びや相互の親睦、学校との信頼関係を醸成することが中心でしたが、昨今はそれに学校と地域を結びつけるものという流れが加わってまいりました。小中学生や私たち保護者も地域の担い手として期待されている表れかと思えます。社会がこれから大人へと成長していく子どもたちにどのようなことを期待しているか、それに私たち保護者がどう応えるか、どう子どもたちと向き合っていくかPTAを通じて課題を共有し、活かしていくことが研修大会の意義になってくるものと感じております。子どもたちが小中学生である期間は9年間にも及び、その成長過程に応じて保護者の悩みや先生方の指導方針は広範囲にわたります。この研修大会を通じて知り合った仲間同士、共有し学び合っていくことが、今後の家庭教育において大きな指針となることを期待しているところです。正解がない問題だからこそ、知恵や経験の蓄積を集合知へと昇華してまいりましょう。

次年度開催に向けて、主管4校が力を合わせて参ります。ぜひ、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

晴れの受賞 おめでとうございます (山形市PTA関係)

☆日本PTA全国協議会会長表彰（個人）

・齋藤 秀和

・吉村 和武 山形市P連 前副会長

・宇野 正彦 山形市P連 前副会長

☆日本PTA全国協議会会長表彰（団体）

・山形市立第一中学校PTA

☆山形県PTA連合会会長表彰（感謝状）

・齋藤 秀和 山形県P連 前副会長

・鈴木 隆 山形県P連 前監事

☆山形県PTA連合会会長表彰（表彰状）

・石澤 淳一 山形市P連研修大会 前実行委員長

◆ 令和元年度 山形市PTA連合会役員名簿 ◆

役職名	氏 名	所属PTA	役職名	氏 名	所属PTA
会 長	佐 藤 博 之	第 六 小	理 事	荒 井 英 晴	みはらしの丘小
副 会 長	船 橋 吾 一	蔵王第二小	理 事	原 田 賢 一	大 曾 根 小
副 会 長	佐 藤 竜 太	第 一 中	理 事	佐 藤 一 也	金 井 中
副 会 長	遠 藤 明	高 楯 中	理 事	吉 岡 裕 志	附 属 中
副会長（T）	島 軒 隆	滝山小校長	理 事	高 見 佳 澄	山 寺 小 中
副会長（T）	洪 谷 和 久	金井中校長	監 事	中 村 祐 一	第 一 小
理 事	菅 野 学	南 小	監 事	櫻 井 卓 巳	南 沼 原 小
理 事	室 岡 清 人	第 四 小	事務局長	村 山 良 光	
理 事	五十嵐 雅 彦	第 七 小	事務局員	佐 藤 静 子	
理 事	笹 森 愛	鈴 川 小	事務局員	熊 谷 慶 子	
理 事	笠 原 健 一	明 治 小			

編集後記

令和元年度、山形市PTA連合会会報『じゅひょう』の原稿依頼や校正を事務局とともに広報委員会にて担当させていただきました。より分かりやすく写真を多めに配置し、皆さんの目に留まるよう検討しながら作成させていただきました。お仕事や、単位PTAの活動の他お時間を割いて執筆いただいた皆様、お手伝いいただいた広報委員会の皆様ありがとうございました。



令和元年度市P連広報委員会 委員長 佐藤竜太 委員 菅野 学・荒井英晴・櫻井卓巳